

## 東奥日報

2025年(令和7年)2月8日(土曜日) (16)

## 刺し子文化 理解深める

八戸ペンクラブ 川守田教授が講演

八戸

八戸ペンクラブ(滝尻善英会長)はこのほど、八戸市の八戸クリニック街かどミュージアムで新春講演会を開いた。講師を務めた八戸工業大学の川守田礼子教

授が南部菱刺しを中心に本県刺し子文化について話し、聴講した30人が地元に残る工芸品への理解を深めた。川守田氏によると、県南地域に継承される南部菱刺し、津軽地方のこぎん刺し



南部菱刺しなど本県の刺し子文化について講演する川守田教授

は日本三大刺し子。畑作や山仕事が多かった県南と、稲作中心の津軽とで技法的な違いを生み、いずれも装飾要素より保温性や強度といった実用的な機能の必要性を持って発展してきた。戦後の流通革命で多様な衣料材料が入手しやすくなる

と、徐々に衰退した。また、民衆的工芸の名で美に価値を見いだして広まったその後の民芸運動を紹介した上で、川守田氏は「運動は生活に根ざした刺し子とは性質が異なり、賛否両論がある。ただ、この運動がなければ南部菱刺しは消えていたかもしれない」と指摘。「今も残る意義や歴史的背景について考え、次世代につなげていく活動ができれば」と結んだ。

(下館悠々)

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」